

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
R204	社会科・公民科教育法Ⅰ /社会科・公民科教育法Ⅱ	2年	講義	2	寺内孝夫
授業概要 社会科・公民科教育法Ⅰでは、中学校社会科及び高等学校公民科を担当する教師に必要な授業構成に関する基礎的概念を理解することを目標とする。 本科目では、「中学校学習指導要領社会科公民的分野」及び「高等学校学習指導要領公民科」の構成内容を概観する。本科目の履修成果は、社会科・公民科教育法Ⅱにおける教育現場の諸課題を踏まえた実践的力量的の育成の基礎となる。					
到達目標(学習の成果) 1 「中学校学習指導要領社会科公民的分野」、「高等学校学習指導要領公民科」の目標及び主な内容並びに全体の構成内容を理解している。 2 社会科公民的分野及び公民科に関する個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3 社会科公民的分野及び公民科の学習評価の考え方を理解している。 4 社会科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができ、中学校社会科公民的分野、高等学校公民科に係る授業構想について、その略案を作成できる。 5 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	戦前の公民科教育の特質	学制期から終戦直後までの公民科教育の展開を概観し、その特質を理解するとともに、社会科教育成立の背景についての基本的知見を得る。 大正期の「公民科」設置、公民科授業要目の内容と目標、公民教育刷新委員会			
2	社会科・公民科の成立と展開	昭和30年代から現在に至る中学校・高等学校における社会科教育・公民科教育の変遷を学ぶ中で、教科・科目の果たすべき役割と課題について考察する。 学習指導要領、教育の現代化、公民的分野と公民科			
3	公民科教育の基盤	公民科教育は「授業」を通して実現されるが、授業実践に際して教師はどのような点に留意して教育内容を構成したらよいか。基本的な考え方について理解する。 教科達成目標の構造モデル、教育内容と教材、教授・学習過程、評価の基準と方法			
4	社会参画としての社会科・公民科授業	教育基本法の改正以来、「社会参画」が教育目標として重視されることとなっている。社会参画型授業のあり方について、留意点と課題を軸に具体例を踏まえて考察する。 社会参加と社会参画、習得・活用・探求の三段階、シティズンシップ教育			
5	社会科公民授業の構成(1) 現代社会	現代社会をとらえる見方や考え方の学習に際して、授業をどう構成したらよいか、事例を基に実践的に学修する。 物事の決定の仕方、きまりの意義、対立と合意、効率と公正、法教育			
6	社会科公民授業の構成(2) 経済	豊かなくらしとは何かの学習に際して、経済の基本原則を身近な例に則してどのように授業を構成したらよいか、実践的に学修する。 市場の働きと経済、国民生活と政府の役割の指導、消費者教育、金融教育			
7	社会科公民授業の構成(3) 政治	民主主義とは何かの学習に際して、政治の基本原則を身近な例に則してどのように授業を構成したらよいか、実践的に学修する。 日本国憲法の基本原則、民主政治と政治参加、政治学習			
8	社会科公民授業の構成(4) 国際社会	世界平和のために何が出来るかの学習に際して、国際社会の諸課題に関心を持ち積極的に関与しようとする態度を育成するための授業構成について、実践的に学修する。 世界平和と人類の福祉の増大、紛争と平和学習、主権と領土			
9	「現代社会」の授業構成(1) 幸福・正義・公正	社会の在り方を考察するための基本的な枠組みを構成する幸福、正義、公正などを理解させるための授業構成について、実践的に学修する。 個人の幸福と社会の幸福、社会にとっての正義、手続きや結果の公正			
10	「現代社会」の授業構成(2) 共に生きる社会	他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる授業構成について、実践的に学習する。 生命の尊重、自由・権利と責任・義務、法に関する基本的な見方・考え方			

11	「政治経済」の授業構成(1) 政治分野	民主政治の本質を理解させるとともに、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる授業構成について、実践的に学修する。 基本的人権の保障と法の支配、裁判員制度、国際政治と国際紛争
12	「政治経済」の授業構成(2) 経済分野	現代経済の仕組みや機能について理解させるとともに、経済についての基本的な見方や考え方を身につけさせる授業構成について、実践的に学修する。 市場経済の機能と限界、金融の仕組みと働き、国際経済における日本の役割
13	「倫理」の授業構成(1) 自己の課題	青年期の意義と課題を理解させ、自己の生き方が現代の倫理的課題と結びついていることをとらえさせる授業構成について、実践的に学修する。 自らの体験や悩みを振り返る、豊かな自己形成、他者と共に生きる
14	「倫理」の授業構成(2) 人間としての在り方生き方	先哲の基本的な考え方を通して、人間の存在や価値について思索を深めさせる授業構成について、実践的に学修する。 ギリシア思想とキリスト教、イスラム教と仏教、儒教と神道
15	社会科・公民科教育法Ⅰの学修の まとめ	社会科・公民科教育法Ⅰの学修の総括を通して、社会科教師として必要な基本的資質を確認するとともに、職業人として社会の発展に寄与しようとする意欲や態度を身につける。
準備学修(授業外の自己学修) 1 授業計画に示された学修内容に沿って準備学修を深めておくこと。特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確実に調べておくこと。 2 レポートも活用して到達目標の実現を図るので、準備学修を確実に実施すること。 3 特に、各自の意見を表明する項目については、学修を深め、根拠を示しながら論理的な文でもって記載すること。		
成績評価の方法・基準(%表記) 定期試験 70%(専門用語を使用し、根拠を示しながら論理的な文でもって解答すること。各自の意見を表明する際には、感想でなく、論理的に説明すること。) レポート 30%(ABCD4段階評価 すべての課題を提出すること。)		
教科書 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 (平成20年3月告示 文部科学省) 新中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省) 中学校学習指導要領解説 社会編 (平成20年9月 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 公民編 (平成22年6月 文部科学省)		
参考書等 中学校教科書『新編 新しい社会 公民』(東京書籍) 高校教科書『現代社会』(東京書籍) 授業中にも適宜資料を配付する。		
履修上の注意・学修支援 1 出席確認をスムーズに行うため、指定された座席に着席する。 2 遅刻・早退等不在時間計10分以上は、受講時間確保上、出席したとは認められない。 3 全人教育及びキャリア教育の観点から、講義に際しては礼儀とけじめを重視し、講義の開始時・終了時には起立の上、受講者相互の挨拶を励行すること。 4 望ましい受講環境の維持のため、私語は厳に慎むこと。 受講上の疑問や講義内容に関する質問がある場合は、講義前後に問い合わせると共に、オフィスアワーを積極的に活用すること。		